

# うめナビ

2018.4  
Vol.73

## 水演出の会社ウォーターパールの新提案 濡れない滝、アクアウォールパネルで オフィスや店舗が一気に癒しの空間へ

ウォーターパール



「滝壁 アクアウォールパネル」

特殊照明を使って水玉が逆流して見える不思議な噴水：ウォーターパール（品川区西品川、深野富士恵社長、03・5740・6561、<https://www.waterpearl.co.jp>）が、オフィスやテナント店舗でも気軽に取り入れられる「滝壁 アクアウォールパネル」を開発した。

これは薄型の透明パネルの内側に水を流すシステムで、触っても濡れないことから狭い空間でも圧迫感なく仕切れる壁として注目されている。流れる滝越しに見える向こうの風景はぼんやりと滲み、癒し効果が高くオフィスの商談コーナーやクリニックの待合室などで大いに活用できる。水といえど腐らない専用水を使用しているため水の交換や清掃はまったく必要なく、専用水の補充も多くて半年に1回。導入後2〜3年間1回も補充せず稼働している施設もあるというから、ほぼメンテナンスフリーだ。給排水設備の工事は不要でコンセントが近くにあればどこでも設置可能なので、改装や新装時でなくてもパーテーションのように気軽に導入できる。価格は1枚約60万円、最大寸法は高300cm×幅120cmまで、mm単位での設計が可能で隙間なく取り付けができる。創業22年となる同社は、公共事業中心の噴水メーカーとは違い、常に他にはない新しい技術で「身近な水演出」という業界を切り拓いてきた。新しい技術には必ず特許を取得し、海外からの要請も多く13カ国30カ所の導入実績がある。東京五輪を2年後に控え、ホテルやオフィスビルなど各地で建設ラッシュとなっている中、「滝壁 アクアウォールパネル」が都市の潤いに一役買うことは間違いないだろう。

2〜3年間1回も補充せず稼働している施設もあるというから、ほぼメンテナンスフリーだ。給排水設備の工事は不要でコンセントが近くにあればどこでも設置可能なので、改装や新装時でなくてもパーテーションのように気軽に導入できる。価格は1枚約60万円、最大寸法は高300cm×幅120cmまで、mm単位での設計が可能で隙間なく取り付けができる。創業22年となる同社は、公共事業中心の噴水メーカーとは違い、常に他にはない新しい技術で「身近な水演出」という業界を切り拓いてきた。新しい技術には必ず特許を取得し、海外からの要請も多く13カ国30カ所の導入実績がある。東京五輪を2年後に控え、ホテルやオフィスビルなど各地で建設ラッシュとなっている中、「滝壁 アクアウォールパネル」が都市の潤いに一役買うことは間違いないだろう。



オフィスのエントランスを涼やかに演出する

## すべてはお客様の笑顔のために 「最初の一滴」旬の走り 食材の旨味をいち早くお届け！

First Drop



はなたれ自慢の新鮮な刺身魚魂盛り

First Drop（横浜市中区野毛町

平尾謙太郎社長、<http://firstdrop.jp>）は、横浜・桜木町を中心に、銀座丸ノ内、日本橋など22店舗を展開しており、平成15年の創業以来一貫して『鮮魚、地野菜、日本酒』を三本柱に、他の居酒屋との差別化を図っている。店名の「はなたれ」そして社名の「First Drop」とは、焼酎を蒸留する際、一番初めに垂れる一滴「初垂れ」に由来しているという。同社は「一つでも多くの旨いを正しく食の場へ」「一つでも多くの成長の場をかかわる全員へ」という企業理念のもと、徹底して「最初の一滴」のおいしさにこだわり、食材の「旬の走り」をいち早くお客様にお届けすることにこだわりながら、社員全員が生き生きと働いている。

三本柱のひとつ、『鮮魚』は、毎日横浜中央卸売市場と湘南の港へ出向き、早朝に水揚げされた新鮮な魚を仕入れている。そして、三方を海に囲まれ、冬は暖かく夏は涼しい温暖な気候を活かした露地栽培中心の農業が盛んな三浦半島



温かみのある木目調が居心地よく落ち着いた雰囲気のお店



うめナビ  
送付先業種



商社  
8先



スーパー・小売・百貨店  
30先



メーカー  
15先



マスコミ・出版  
32先



教育(大学・専門学校)  
33先



官公庁  
36先



ホテル  
9先



金融  
51先



建設・不動産  
14先



システム関連  
9先



その他  
42先

合計  
279先

※本誌は、城南信用金庫のお取引先に配布する他、商社、百貨店、スーパー、メーカー、マスコミ、大学等にもお届けしています。

# 自動車・建築・理化学機器関連部品を製造 金型の設計製作から溶接・組立まで 一貫した自社生産体制

林工業

林工業（林雄太社長、本社：大田区東雪谷、03・3727・1241 / 西那須野工場：那須塩原市高柳、0287・366211 / 那須烏山工場：那須烏山市鴻野山0287・880156）は、金型の設計製作から金属プレス加工、切削・溶接・組立などを自社で一貫して生産できる体制をとっている。

昭和25年にミシン製造会社の協力工場として品川区旗の台で創業した同社は、プレス金型およびその加工部品、精密プレス部品加工による家庭用ミシンの部品製造からスタートした。製造・販売が拡大する中で、昭和37年に西那須野工場、平成20年には那須烏山工場を新設、同社最大加圧能力を保有する250tダブルクランクプレスによる操業を開始した。ミシン部品製造で培った高い技術を活かし、昭和59年からは大学の研究室などで使用される理化学汎用実験機器の設計開発・製造に着手、さらに平成元年には自動車製造部品業界へ参入し、ミシン部品製造からの業態転換を図った。現在の事業構成比は、自動車関連50%、建築関連25%、理化学機器関連25%となっている。

三代目である林雄太社長は、「戦



林雄太社長

後復興・平和な生活の発展に当社の技術力で貢献していきたい」という創業者である祖父の「平和産業」への想いを受け継ぎ、一貫生産体制による「コストダウン」と「品質保証」を武器に、常に新たな技術や市場の開拓、新しい価値を創造すべく、事業に取組んでいる。日本の「モノ作り」の根幹である高品質・コスト競争力・納期順守の3本柱を追求しつつお客様の多様なニーズに応え、あらゆる業界へ提案を続ける当社へ、金属部品でお困りの際はぜひご相談ください。



# 「おいしいマヨネーズが食べたい！」 シンプルで熱い想いが生んだ オリジナルクラフトマヨネーズ

スパイスアンドピース  
マヨネーズファクトリー

昨年3月に創業したスパイスアンドピースマヨネーズファクトリー（横浜市中区本牧原、神藤徳政代表、044・767・9580、<https://spiceandpeace.shopinfo.jp/>）は、外食産業で商品開発と業態開発に永年携わってきた神藤氏と世界中を旅する旅行作家の山下マヌー氏がFacebookで20年振りに再会し、立ち上げた。川崎市宮前区にテストキッチンと工場を構え、昔ながらのホテル&レストランレシピのオリジナルクラフトマヨネーズの製造販売を行っている。

同社のつくるマヨネーズは、総称としてマジックマヨネーズ。食卓において楽しい笑顔を届ける魔法の調味料だ。吟味した素材のよさを最大限に引き出すために、保存料や添加物を一切使わず、製造手順にこだわり手間暇かけてつくられる。さらに、同社商品の最大の特長は、世界中のスパイス&香辛料を仕上げのアクセントとして加えた



食卓に魔法をかける...世界中のスパイスや香辛料が彩る同社のオリジナルクラフトマヨネーズ

現在の首都圏イベントやマルシェへの出店と通販主体の営業に加え、今春からは自由が丘などでのショッパ販売も開始する。創業者二人の知恵と経験に遊び心を加えたマヨネーズづくりは今後も進化を続けていく。



大手町マルシェ出店の様子

# 地域と共生して半世紀 熟練のジュエリー専門店がたどり着いた 日々の暮らしに寄り添う営み

イソノズ

イソノズ（有限会社磯野商会、町田市玉川学園、磯野利彦社長、042・728・6560、<http://isonoz.jp/>）は、約半世紀の間、宝飾貴金属の卸と小売を営んでいる。流通が変化した際には、従来の卸だけではなく現在の小売の店舗の出店に対応し、リーマンショック後は、製品の販売だけではなく地金等の買取やリフォームや修理といったサービスに力を入れて、時代の流れに合わせて柔軟に生き抜いてきた。

地域と共生し、ジュエリー離れしがちな現代人の暮らしに寄り添うことで宝石を身近に感じてもらうよう努力を続けている。たとえば、遺産分割の参考として、遺品のジュエリーの簡易査定を請け負っている。また、指が腫れて外れなくなった指輪を切断・除去してサイズ直しをしたり、不要なら買取をしてくれたり、半世紀以上の経験による熟練の目利きと豊富なネットワークで、リーズ



さらに、地域貢献として店内のギャラリースペースを無料で提供している。作品を発表したい人と文化に触れたい町内の人をつなぐコミュニケーションの場を設けることで、地域に溶けこむ店舗をめざしている。展示したい作品をお持ちの方はお気軽にお問合せいただきたい。



無料で提供しているギャラリースペース



# 「土壌調査・対策はお任せください！頼んでよかったと言ってもらえる仕事をします」 環境省の指定調査機関としても実績

セロリ

セロリ（厚木市妻田西、遠藤哲哉社長、046・222・0247、<https://www.celery.co.jp>）は、土壌汚染の調査から対策までの施工と、関連機器の設計・製造・販売を行っている。

「土壌汚染という言葉は、最近になってみなさんも耳にする機会が増えたと思いますが、その法律の歴史はまだ浅いのです」と遠藤社長が話す『土壌汚染対策法』は、平成15年2月に施行された。同年5月設立の有限会社セロリは、平成18年4月に株式会社化。社名には、「独特の味と香りを持つ野菜の『セロリ』のように、お客様一人ひとりの好みがある中でも、選んでいただける会社でありたい」という想いがこめられている。

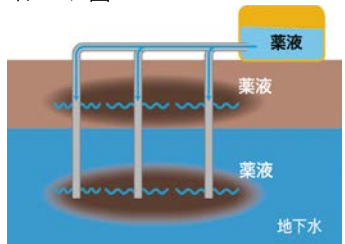
以来、「最初から最後まで、お客様の立場に立って、責任をもって」という信念のもと、神奈川県・東京都をはじめ関東地域を中心に全国で、法人個人問わず、ときに公共団体からも土壌調査と対策の依頼を受けており、平成17年からは専門の技術管理者を置く環境省の指定調査機関として、依頼者と行政との間に立っている。

土壌汚染調査と対策は、不動産取引・事務所閉鎖などにおいてニーズが発生する。同社は、第一段階「地歴調査」から請け負うが、きめ細かい相談対応に



ボーリング調査での土壌試料採取の様子（自社製造機による掘削）

土壌汚染の浄化対策  
現地浄化の1つ【薬液注入工法】のイメージ図



定評があるため、セカンドオピニオンを求めて第二段階「状況調査」「ボーリング調査」から問合せを受ける事例も少なくない。また、第三段階である「土壌汚染/地下水汚染対策」においても最適プランを提案、実績を重ねてきた。

目に見えない地下の土壌汚染問題は、イメージしにくく用語も耳慣れないものが多い。そのため、同社のホームページでは、調査や対策の作業内容、特定有害物質、法律についても写真や動画を交えて説明し、費用の目安を載せるなど分かりやすい情報提供に努めている。

# ノロウイルス、インフルエンザも怖くない！ 誰でも簡単に除菌・抗菌ができる 「クリアミストプラス」を開発

ハセガワ

ハセガワ（品川区荏原、長谷川新一社長、電話03・3781・3191、FAX03・3781・3968）は、昭和3年に個人事業として創業して以来、「人と自然にやさしく」をモットーに、人体や自然環境に配慮した外食産業関連商品をご提供している。



クリアミストプラス使用事例

現在、同社では、プロ用の洗剤製造だけでなく、事業先・個人問わずお使いいただけるアルコール除菌・抗菌剤「クリアミストプラス」を開発・発売した。自衛隊、南極砕氷船しらせではノロウイルス対策として、ホテル、保育園、幼稚園、介護老人保健施設、クリニックではインフルエンザやノロウイルス対策として、幅広い納入実績がある。また、お客様からの反応も、「使いやすい」「インフルエンザで休む子が少なくなった」と上々のようだ。

同商品の特筆すべき点は、対象物に噴霧するだけで拭き取り不要という手軽さと、除菌・抗菌作用の明確なエビデンスも保有する高規格の製品性能である。携帯用・スプレータイプ・業務用の大容量など豊富なラインナップが揃い、誰でもどこでも手軽に、すぐれた除菌・抗菌作業を行うことが可能となっている。

ホームページ（<http://www.hasegawa-corp.co.jp>）でも、同社が取扱っているさまざまな商品を紹介しているので、気になる商品など、遠慮なくお問い合わせください。

アルコール除菌・抗菌剤「クリアミストプラス」



【製品規格】  
50ml 500ml 1L 5L 20L

【殺菌効果試験菌】  
ノロウイルス（ネコカリシウイルスにて代替）、A型インフルエンザ、緑膿菌、腸炎ビブリオ、O-157、カンピロバクター、MRSA、サルモネラ、リステリア、黄色ブドウ球菌、白癬菌、青カビ

【抗菌試験菌】  
黄色ブドウ球菌、肺炎桿菌、MRSA、大腸菌、緑膿菌、モラクセラ菌、A型インフルエンザ、黒カビ、白癬菌

# 多摩に咲く花の蜜で育った蜂たちと 蜂をこよなく愛する「大家族」が つくり出す「極上の天然蜂蜜」

多摩養蜂園



各種蜂蜜の並ぶ作業場の前で、塩原社長とご長男

多摩養蜂園（稲城市矢野口、塩原英一社長、042・377・5379）は、京王線京王よみうりランド駅から徒歩7分、住宅街の中にある。創業以来50年以上にわたって昔ながらの製法を守り続け、天然プロポリス、ローヤルゼリー、花粉、蜂蜜各種、養蜂器具一式の販売を行っている（電話での発送も承っている）。

塩原社長の自宅屋上で約80万匹のミツバチを飼育し、花が咲いている畑などに連れて行き蜜を採集したり、蜜を遠心分離機にかけて濾過するなど、蜂蜜を商品化するまでの作業工程はすべて自社で行っている。実は6人の子持ちで大家族がテーマのテレビ番組にもたびたび出演しているという社長一家、休みには大学生の長男を中心に家族皆で仕事を手伝う。

そんな家族経営でつくる蜂蜜の一番の売りは、高品質と生産者の顔が見える安心感である。定番のアカシア、れんげをはじめ、うめ、りんご、なのはな、オレンジ、とち、そば、ホワイトクローバーなど、約20種類の蜂蜜を扱っている。スーパーではなかなかお目にかかれな



80万匹のミツバチが暮らす巣箱

い桜の蜂蜜や蜂の巣など、蜂蜜ファンにはたまらない貴重な商品もあり、人気を博している。

蜂蜜は、種類によって香りや味が全然違うので、店頭でそれぞれに試して教えてもらいながら、色々な食べ方を試してみるのも楽しい。また、可愛くラッピングされた小瓶はプレゼントとしても最適である。ぜひ一度、稲城の多摩養蜂園に足を運んでいただき、丹精込めてつくられた天然蜂蜜を味わってほしい。

# 狭小地域でもお客様のこだわりを実現 都市部の法規制にも 熟達した家づくりのプロ

ジャパンホーム

東京・神奈川で、狭小・変形地など首都圏の厳しい条件下での質の高い家づくりを得意とするのがジャパンホーム（港区浜松町、皆木久一社長、03-5777-3567、http://www.japan-home.com/）だ。

都市部ならではの難しい敷地条件と法的要素をクリアし、夢の住まいを実現するため、とことんお客様のこだわりを伺い、創意工夫を凝らし、カタチにする。ライフスタイルや家族構成などを配慮し、



都市部の限られた敷地や法制度下でも、熟練のプロ集団が夢の住まいを実現

子育て世帯や二世帯住宅、ガレージハウスまで、さまざまなご要望に対応した設計提案で多彩な家を建てた実績をもつ。また、経験豊富な一級建築士や公認不動産コンサルタント、ファイナンスプランナー、大手ハウスメーカーの商品開発経験者などが在籍。少数精鋭、住まいづくりの豊富なノウハウを有するスタッフが集まる。

たとえば建築面積約9坪の狭小地でも、他社に真似できないこだわりの住まいを実現させられる秘訣は、同社の設立経緯にある。元々、大手ハウスメーカーに勤めていた皆木社長は、規格ありきで似たような構造や間取り、個性のない外観といったメーカー都合の住宅に違和感を覚えていた。「もつとお客様のこだわりを実現できる家づくりがしたい」という社長の想いに共感した同志が集まった住まいづくりのプロ集団。お客様に本当に喜んでいただけるよう、自社ですべて施工・管理を行い、モデルハウスを作らないことでお客様の建築コストを抑えている。常にお客様の想いに応え、理想の家づくりを伴走したいと願う皆木社長の信念は揺るぎない。

# 活版印刷ブーム再燃！ 個人のお客様にも使い勝手◎ 100gのチューブ入りインキ

印材舎

印材舎（世田谷区代沢、朝生公章社長、03-34412-3011）は、大正12年（1923年）創業の印刷インキメーカーである。

元々は書籍用活版インキの専門メーカーとして起業。オフセット印刷の発展につれ、活版インキの需要や取扱いメーカーが少なくなる中で、今なお、墨インキや各種中間色はもちろん、プロセス色や金銀蛍光色に至るまで、幅広いラインナップを取揃えている。特に同社の墨インキは、漆黒性に富み、多くのお客様から高く評価されている。



多彩な色をつくり出す現場

一時は絶滅した！とも言われた活版印刷が見直される今、ビジネスユースではなく個人レベルで静かなブームを起している。最

- 【墨 シリーズ】  
活版用AP墨：標準タイプの活版インキ  
活版用AP DR墨：速乾タイプの活版インキ
- 【基本色・中間色 シリーズ】  
黄・紅・藍・橙・紫・茶・赤・金赤・群青・紺藍・浅葱・白・バイオレット・グリーン・マゼンタ・ピンク
- 【特別色 シリーズ】  
ゴールド・シルバー・プラチナムシルバー・蛍光オレンジ・蛍光ピンク・蛍光グリーン
- 【特練シリーズ】  
お客様のご要望のインキを調合いたします。



個人にも使いやすい100gのチューブ製品

近、「大人の科学マガジン」から発売された『小さな活版印刷機』は予約販売で完売したり、川越にある小さな活版印刷所を舞台にした『ほしおさなえ氏の「活版印刷三日月堂」シリーズが10万部を超えるベストセラーになっている。また、活版印刷に関連した各地の展示会やフェアも超満員の盛況となっており、活版印刷への関心の高さが窺える。

しかし、一般に印刷インキは1kg（缶）でのデリバリが標準で、個人のお客様には量が多く、インキヘラも使いにくい。そこで、同社は、個人向けに100g「チューブ」入りの製品販売を開始した。ホームセンターやDIYショップに手軽に置いていただける大きさで、インキの取扱いに不慣れなお客様にも無駄なく簡単に使用可能だ。DICカラーガイドやパントンカラーガイド、刷り見本やインキ現物（肉眼本）のご用命も承っている。

# 新しい「モノ創り」をめざして 「職人技」+「デジタル技術」の融合で 確かな製品を提供する大田区の町工場

太田技研

太田技研（大田区仲六郷、太田英樹社長、03-3736-7330）は、①精密機器産業、②通信インフラ設備、③再生可能エネルギー関連といった精密部品の加工を主力としている。

近年、製造業においても、グローバル化による海外生産かつ製品サイクルの短期化、小型・軽量化が進み、また、納期短縮に伴うパーツオーダーからユニットオーダーへと変化していくお客様のニーズに対し、従来型の「下請け」事業形態から提案力が必要な「自立型」企業への転換が求められている。同社は、「試作品開発」「変種変量製品」への対応に不可欠な先端の「デジタル技術」を磨き、IT・C



太田英樹社長（右）、実弟の和博氏（左）



曲げ加工された製品、同社の「モノづくり力」が窺える  
レーザーマシン（前）、バンディングマシン（奥）など、充実した同社設備

AD-CA Mシステムがつくる二次元加工データをレーザーマシンなどの各種高精度加工機へ出力する生産ネットワークを構築して計画的に設備投資を推進し、着実に技術力の向上を図ってきた。

永年培ってきた職人技と新しいテクニクを融合させた、より付加価値が高く高品質で安定した同社の製品づくりには、お客様からの信頼も厚い。お客様から要求される価値以上の製品、その先にあるエンドユーザーに満足感を与えるられる製品づくりが企業理念でもある。「従来型の図面指示通りの『モノ造り』から、お客様の意見・ご要望を伺い柔軟なアイデアと『モノづくり力』を活かした『モノ創り』企業へと一層進化させていきたい」と太田社長は熱く語る。

二次元データによる「製品立体図」にて、工程の見える化をはじめ、実際に作業工程や品質管理をご覧いただける工場見学や地元の小生にモノ創りの魅力を伝える社会貢献活動も行っている。ぜひ一度当社に足をお運びください。